

みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路再整備の検討について

令和元年8月20日、24日
説明会資料
横浜市道路局、都市整備局

1 関内駅周辺地区の主な動向について

(1) 教育文化センター跡地活用事業

「学校法人関東学院」により、**3,300名を超える学生が学ぶキャンパスが創設**され、ホール、ブックカフェ、デジタル図書室等、一般利用可能な施設が開放されます。(令和4年4月開校予定)



▲関東学院新キャンパス完成予想図



▲地域に開かれたキャンパス



▲ホール

(2) 現市庁舎街区活用事業

平成31年1月から事業者公募を開始し、令和元年9月に**事業予定者を決定する予定**です。

事業者には、拠点整備だけでなく、その効果を周辺地域に波及させるため、回遊性を高める歩行者動線の整備や交通機能の導入、広場整備などを求めています。



▲現市庁舎街区

(3) 横浜スタジアム増築・改修

施設の老朽化や収容人数不足、また2020年の東京オリンピックにおける野球等の主会場になる予定であることを踏まえ、横浜スタジアムが既存の29,000席から**6,000席増築し、合計35,000人を収容できる施設へと改修**されます。

(令和2年3月供用開始予定)



▲横浜スタジアム完成予想図

(4) 横浜文化体育館再整備事業

メインアリーナは約5,000席、サブアリーナは最大3,000席が設置され、これまでの市民利用に加え、新たに大規模なスポーツ大会・コンサートなどの興行利用や武道館としての利用を予定しています。(サブアリーナ：令和2年7月、メインアリーナ：令和6年4月供用開始予定)



▲メインアリーナ完成予想図



▲メインアリーナ活用イメージ(イベント利用時)



▲サブアリーナ完成予想図

2 みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路再整備の検討内容について

(1) 事業概要(「関内駅周辺地区エリアコンセプトブック」(平成31年1月公表(抜粋)))

関内側エリア及び関外側エリアともに、「国際的な産学連携」「観光・集客」の実現に向けた大規模施設の立地が続き、来街者の増加による、地区の更なる賑わい創出が期待されます。

こうした大規模施設が面する「みなと大通り」及び「横浜文化体育館へのアクセス動線」は、連続する1つの路線であり、各施設間の回遊性を向上させるとともに、大通り公園や日本大通りをつなぐ緑の軸線などとあわせて、関内側エリアと関外側エリアとの一体性を向上させる重要な動線です。

一方、現状は車道が広く路上駐車が目立つとともに、既設の自転車歩行者道は狭く、また将来の来街者の増大も見据えると、交差点部においては歩行者溜まりも十分とはいえない状況です。

このため、**車道幅を狭めて歩行者・自転車通行空間を拡充する等、沿道利用状況を踏まえながら既存道路空間の再整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの強化・拡充を図っていきます。**



▲道路再整備検討位置図



▲みなと大通りの現状



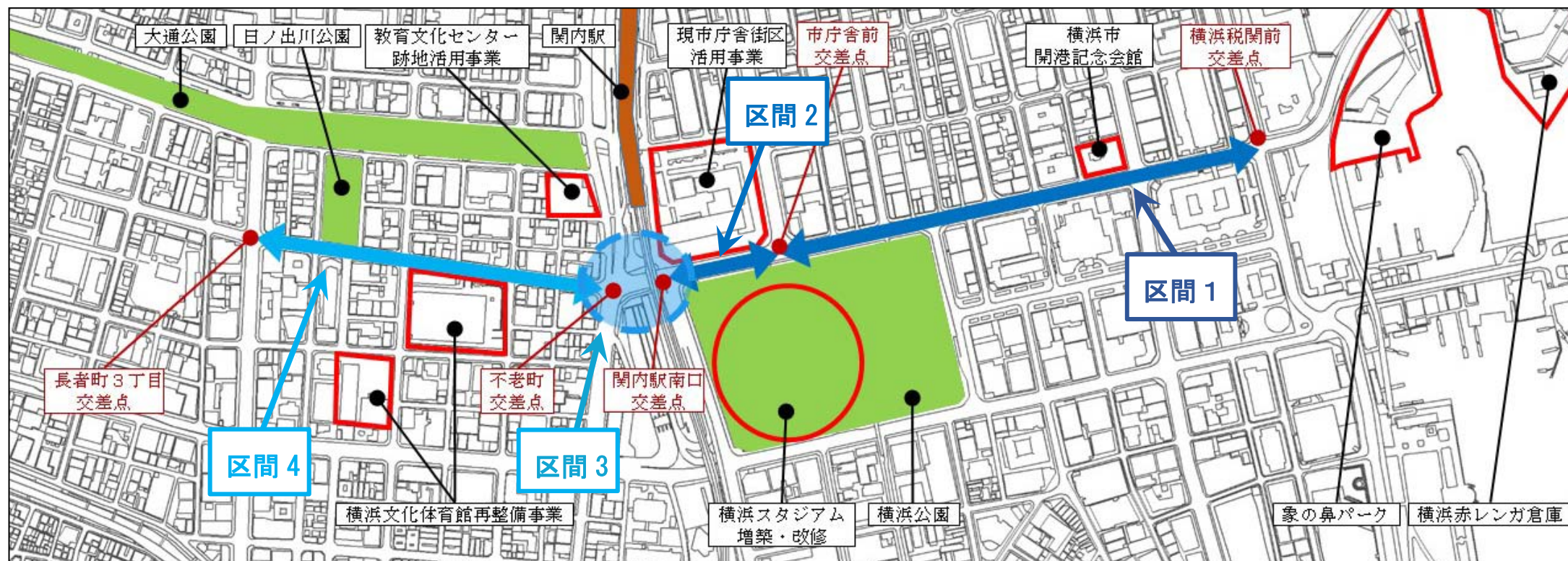
▲横浜文化体育館へのアクセス動線の現状

(2) 事業スケジュール(予定)

平成30年度 交通量調査、現状調査、道路再配分案検討、関係機関協議
令和元年度 測量、基本設計、関係機関協議
令和2年度 社会実験、詳細設計、デザイン検討、関係機関協議
令和3年度から5年度 工事

(3) 道路再整備の検討について

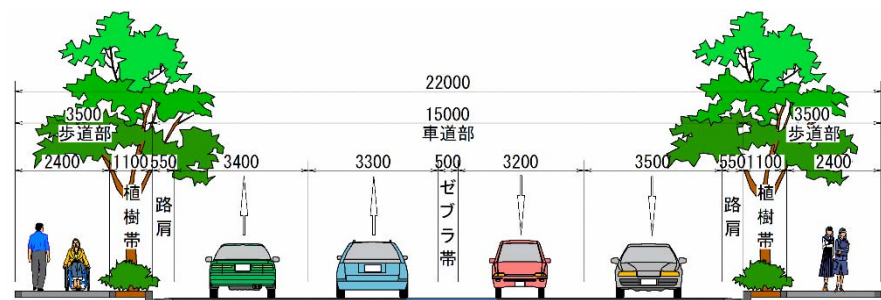
※本資料の内容は、検討中のものであり、今後の関係機関との協議により変更する可能性があります。



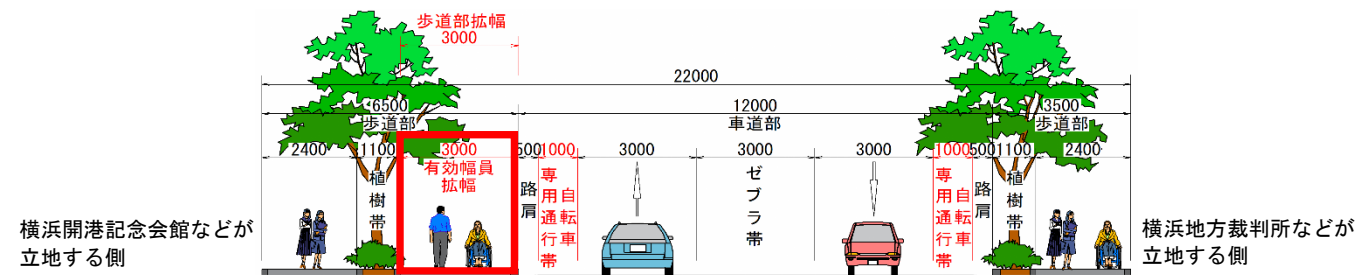
①区間1：みなと大通り（横浜税関前交差点～市庁舎前交差点の区間）

車線を4車線から3車線に減らし、歩道拡幅および自転車通行帯の整備を検討しています。
海に向かって左側の沿道には、飲食店や商店が並び、賑わいの創出などが期待できるため、片側に広くまとまりのある歩行空間を整備することを検討しています。

現況



整備イメージ（横浜開港記念会館などが立地する側にまとまりのある歩行空間を整備する案）



②区間2：現市庁舎街区と横浜公園間（市庁舎前交差点～関内駅南口交差点の区間）

現市庁舎街区と横浜公園間は、自動車交通量が多く、車線数を減らすことができないため、現市庁舎街区活用事業において、みなと大通りに面する側に、既設歩道と一体となる有効幅員1.5m以上の歩道状空地を整備することとしています。

③区間3：関内駅南口交差点と不老町交差点の区間

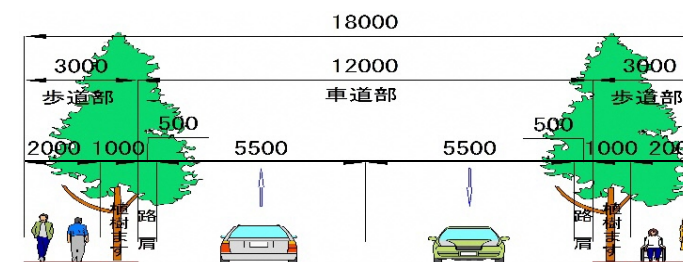
関内駅南口交差点および不老町交差点について、回遊性向上を検討します。

④区間4：横浜文化体育館へのアクセス動線（不老町交差点～長者町3丁目交差点の区間）

車道の車線幅を縮小し（1車線5.5mから3.0mに変更）、歩道拡幅および自転車通行帯の整備を検討しています。

海に向かって右側の沿道には、横浜文化体育館メインアリーナ等が立地します。イベント時に利用者の滞留空間を確保することや、賑わいの創出を図るため、片側に広くまとまりのある歩行空間を整備することを検討しています。

現況



整備イメージ（横浜文化体育館などが立地する側にまとまりのある歩行空間を整備する案）

